

《脚本・演出》

関本三芳

《出演》

カオル

岩本あちゃこ

高橋るり

リチャード

依田悦代

寺島悦子

依田英世

長島利夫

《スタッフ》

大久保琢弥

清沢歩子



イラスト カオル

人情

古い婆さん遊々噺

落語

御神酒徳利より

チケット 大人 2500円

中学生以下 1500円

(当日300円増)

会場：劇団お伽座

お問い合わせ

048-581-7449

12月	7 (土)	8 (日)	14 (土)	15 (日)
14時		●		●
18時	●		●	

開場は開演の30分前

人情占い婆さん 遊々噺

脚本・演出 関本三芳

上演にあたって

去年の暮、落語の「お神酒徳利」をお伽座で芝居に書き直して上演できないかと思立ち、アトリエの三階で習い立てのパソコンのキーボードをたどどしく打ち出した。自分でも嫌になるくらい遅くて、何度も同じ過ちを繰り返す。あきらめて辞めてしまおうと思ったが、ある時、成長の兆しが見えて来た。

そうなると思わなかった。あんなに嫌で苦手だと思っていたものが楽しくなる。

手書きで書いていた時は、棒線やト書きやあとで挿入した台詞やらでぐちゃぐちゃになり、後から自分で読み直しても判らないことがある。まして他人に読める訳がない。

パソコンはそうした煩わしさを一気に解消してくれた。思えばはるか昔の人間も、火や道具を使いこなすにはさぞかし苦労した事だろう。

台詞が打ち込めるようになると登場人物が動き出す。些細な妄想が大きく膨らみ、勝手に走りだす。

役者に「余計な事を書きすぎる」と何度も注意されるが、止まらない。

それでも断じて、物語はどんどん膨らませるだけ膨らまし、本当に余計なところは、後から削れば良いのである。

落語 お神酒徳利

落語の演目の一つで中国、トルコ、コーカサスにも類似したお話があるそうです。

上方落語の演目で、五代目金原亭馬生が上方の噺を東京に移して、六代目、三遊亭圓生がこれを練り上げて昭和四十八年宮中で、御前口演を致しました。

なお「古い八百屋」という別題で、もう一つの噺がありますが、これは三代目、柳家小さんがやはり上方のものを「ちらの柳派で広めたものだ」といいます。

絡み合った噺のルーツをさかのぼって行くと、様々な国の昔話や民話に辿りつくというのも大変興味深いものになります。

役者のつぶやき



高橋るり

この高竹垣に高竹立てかけたのは高竹立てたかったから高竹立てかけたのです。

カオル

先のことを占ってみてもあたるか当たらないか、やってみなくちゃ分からない。今が良ければそれでいいのだ。

長島利夫

役は蘭学医大藪ですが、役者としては、藪にもならない筈です。

寺島悦子

本当の私はいじ悪お婆さんではありませんが、楽しんでやります！！

岩本あちゃこ

こうみえてワタクシ、毎朝の星占いは、はずせません！

依田英世

六十（？）の手習い！まさか舞台に立つとは…!? お稲荷様も気が付くめ～!!

リチャード

家宝は寝て待て…

依田悦代

紙芝居役者だけのつもりだったが…。人生これから迷い道…!??

会場 劇団お伽座



〒369-1224

埼玉県大里郡寄居町大字鉢形248-4

TEL : 048-581-7449

東武東上線「鉢形駅」徒歩5分

関越自動車道花園インター下車。

国道140号線玉淀大橋を小川方面に左折(254号線沿いセブンイレブン横入る)